

《担当者名》 塚本 容子 [yokot88@hoku-iryo-u.ac.jp]
 山田 拓 [yamada_k@hoku-iryo-u.ac.jp]
 松尾 淳司 (医技) [matsuo@hoku-iryo-u.ac.jp]
 山崎 智弘 (医技) [yamazakit@hoku-iryo-u.ac.jp]
 大久保 利成 (非)

【概要】

感染症を疑う症状を呈した患者のヘルスヒストリー聴取、身体所見の取り方、必要な検査のオーダー、鑑別診断を挙げ、そして治療までの一連の流れを学習する。一部、微生物検査に関しては演習を行う。臨床現場で頻度が高い胸部レントゲンの読影方法や、感染症診断に関連した血液検査についても事例を通して学習する。合わせて、抗菌薬のエンピリックセラピー、検査結果後のデエスカレーションについても理解を深める。在宅療養患者においては抗菌薬内服における感染治療が主になるが、その治療評価についても学習する。カテーテル関連の感染症（血管留置カテーテル・尿道留置カテーテル）において、その感染メカニズムから治療まで、そして予防方法についても検討する

【学修目標】

- 1) 感染症を疑う症状（発熱、咳嗽など）を呈している患者のヘルスヒストリー聴取から、身体所見、検査、鑑別診断、治療までの一連の流れを理解する
- 2) 微生物検査を経験し、その実施内容を理解する
- 3) 抗菌薬の適正使用、エンピリックセラピー、デエスカレーションについて説明できる
- 4) カテーテル関連感染症のメカニズムから治療、予防について実践するための知識、技術を習得する
- 5) 上記の内容において、一般病院における標準的治療を学習することに加え、資源が限定される地域における感染症の治療マネジメント（老健施設や在宅）について理解する

【学習の進め方】

すべてのテーマに置いて、事前の学習課題を提示する。実際の授業では、事前の学習課題のディスカッションを中心に進めることでアクティブラーニングを推進する

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	臨床感染症学概論	1) 疾病定義、メカニズム、発生パターン 2) 感染関連したChief Complaint (主訴) から現病歴などヘルスヒストリーの聴取方法 3) 臨床推論を用いた鑑別診断 4) 身体所見の取り方 5) ヘルスヒストリーから診断へ：感染症診断に関わる血液検査及び培養検査結果の解釈	塚本
3) 7	臨床感染症学各論	1) 患者のヘルスヒストリー聴取から鑑別診断までの流れ 2) 鑑別診断のための検査 3) 治療の選択と評価方法 4) 多職種と情報共有するための診療録の書き方の実際 上記の内容を下記の疾患別に学習する 呼吸器感染 皮膚感染 泌尿器感染 髄膜炎・脳炎 消化器感染 生殖器の感染 など	網島優 (特別講師) 塚本
8) 10	微生物検査の実際	以下を演習にて実施する 1) 細菌グラム染色 2) 細菌分離培養及び同定検査 3) 薬剤感受性試験	松尾 山崎
11)	抗菌薬適正使用	1) Fever of Unknown Origin (FUO) 患者を例に、抗菌薬エンピリックセラピーから、検査結果後のデエス	大久保 塚本

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
12		カレーションの流れ 2) 様々な感染症（感染性胃腸炎、皮膚・軟部組織感染症など）におけるエンピリックセラピー 3) 在宅療養患者における抗菌薬療法とそのモニタリング	
13	カテーテル関連感染予防：中心静脈カテーテル関連血流感染予防	1) 血管留置カテーテル関連血流感染のメカニズムと主な起因微生物、検査、治療、予防について 2) 末梢挿入中心静脈カテーテルの挿入（超音波エコー下挿入）を演習し、どこに感染対策の課題があるのか検討する	塚本 山田
14	カテーテル関連感染予防：尿道留置カテーテル関連尿路感染予防	1) 病院における尿道留置カテーテル関連尿路感染のメカニズムと主な起因微生物、検査、治療、予防について 2) 老人介護施設等、病院外での培養を提出できない場合の尿路感染の診断基準と治療について	塚本 山田
15	まとめ	感染が疑われる事例を1つ取り上げ、臨床推論を用いた鑑別診断、そして検査、治療についてプレゼンテーションを行い、ディスカッションする	塚本 山田

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

プレゼンテーション（30%）、課題レポート（70%）

【教科書】

シュロスバーグの臨床感染症学（2018）. 岩田健太郎監訳、メディカルサイエンスインターナショナル

【参考書】

随時提示する

【学修の準備】

必要な文献、資料を熟読すること。事前の学習課題を課すので、講義前に準備しておくこと。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。